

令和4年度第1回運動部活動と地域等の連携の在り方に関する検討委員会  
【議事要旨】

発言者	協議（1）②山形県における運動部活動改革に係る基本的な考え方について
委員	<p>休日のスポーツ活動について「中体連主催等の大会へ学校単位での参加は除く」とあるが、大会ではない中体連にかかわる事業も該当するか。</p> <p>クラブと部活動が混在するときが一番生徒、保護者に戸惑いがある。地域移行の将来的なビジョンはどうか。</p> <p>休日部活動がクラブ化ということは、休日の部活動はなくなるという考えか。</p>
事務局	<p>中体連の事業とは、おそらく練習試合を想定かと思うが、中体連の大会という認識。</p> <p>地域移行の将来的なビジョンについて、スポーツ庁では、段階的に令和8年度以降、平日もクラブに移行していくことを想定しているが、山形県の中学校のスポーツ環境がそうできるかは不明確。まずは休日から始めて、平日について検討していく必要がある。</p> <p>休日の活動はクラブの活動となり、部活動ではないという認識。教員の働き方改革の面からも、教員は休むということ。</p>
委員	<p>生徒、保護者の意識改革をしなければならない。</p> <p>平日は学校で部活動として仲良くやる、休日はクラブでやりたい人が集まってやるという考えか。部活動で大会に出ることが非常に難しくなってくると思う。</p>
事務局	<p>生徒が部活動で参加するのかクラブで参加するのかを選択することになる。子どもたちが選択するスポーツ活動の場ができてくることを想定している。</p>
委員	<p>生徒の取り合いになり、大会に出られなくなる学校も出てくる。慎重に判断していかなければならないと思う。</p>
委員	<p>休日の部活動を休みにすることと、クラブを設置することはどちらが先か。</p> <p>クラブの質や何か起きた時の対応をコントロールできる組織があるのか。</p>
事務局	<p>休日の部活動を休みにすることと、クラブを設置することは同時進行で進めていく必要がある。</p> <p>設立する、指導者になることに対して、講習やライセンス制度などを共有することで、クラブのコントロールを行っていくようにしたい。クラブにかかわる保護者に対しては、なぜ部活動改革を行うのか基本的な考え方を3年かけてしっかり周知していく必要がある。</p> <p>将来的に様々な選択肢が地域に存在する環境を目指す。</p>
委員	<p>今年度前期までは部活動は地域移行だと思っていたが、山形としては、部活動は平日のみとし、土日は子どもたちが自由に選択した活動をやりましょうということか。</p>
事務局	<p>週末の活動は、スポーツ庁も地域部活動という言葉は使わず、「地域のスポーツ活動」と言っている。学校から離れた地域の活動という認識。</p>
委員	<p>国が答申を受けて考えていることは、学校でのスポーツ活動はしない、将来的には地域で行うのだということ、急にはできないので、休日から始めましょう</p>

	<p>ということ。</p> <p>「部活動は平日のみとし」という表現であると、相変わらず希望していないのに仕方なく従事する教員が出てくると思う。</p> <p>市町村には、今の部活動を単なる横スライドするのではなく、地域のスポーツ活動を整理すると考えてほしい。</p>
委員	市町村でも温度差、スピード感が違う。みんなが同じ目線をつくるために、県は基本的な考え方をアナウンスしていく必要がある。
事務局	今日いただいた意見をしっかり盛り込みながら事務局案を精査し、それを踏まえて周知していきたい。
委員	13ページのクラブの役割が11項目あり、非常に多い印象。 総合型クラブの連携のイメージも記載の他にも様々なパターンが考えられる。
事務局	今の段階では、実践研究を踏まえてこのようなパターンを示した。
委員	国の資料に支援金額76億とあり、運営団体・実施主体の設備充実について、3分の1ずつと決まっているようだが、市町村も了解、確認済みか。
事務局	これは国の概算要求段階で、スポーツ庁が国に示した考え方。 市町村担当課長会議でも説明し、予算についてもお願いした。
委員	すでに市町村も予算要求済みで困ると思う。補助要綱はまだか。
事務局	随時、情報共有していきたい。
委員	その中で(3)指導者の謝金の額について、民間クラブはもっと高額で考えている。指導者に責任を持ってもらい、謝金もしっかりと払っていくことについても検討いただきたい。
事務局	スポーツ庁事業はあくまで概算段階。市町村には、あくまでもスポーツ庁の考えとして伝えた。 指導者の謝金については、対価を払って指導を受けるという流れになってくると考える。
委員	地域移行のために立ち上げたクラブが持続するように丁寧な支援が必要である。 教員が危惧するのは、おいしいところはクラブ、大変な生徒指導と大会運営は学校となること。クラブの組織を適切に構築していく、そのために指導資格があって、子供のためにも指導者のためになるようなクラブの在り方をまじめに考えないといけない。行政は本気になって支援していく必要がある。
<b>発言者</b>	<b>協議(1)③休日の部活動の地域移行の検討について</b>
委員	少子化で部活動が一つの学校、一つの行政区では成り立たなくなっていると、市町村の体育スポーツ協会からお聞きする。ある町教育長は、部活動は広域で取り組んでいく必要があると話していた。 中体連の大会は、学校教育活動の部活動の一環として位置づけられた発表の場であり、県中体連の参加基準は検討中と聞き、私としても考えがまとまらないのが現状。
委員	大会参加について、日本中体連の各競技から具体が現時点で示されていない。 県中体連では地区大会からクラブを参入させることはまだまだできないだろう

	う、県大会から、ストレート種目から始めようかということを考えているのが現状。
委員	先週の東北ブロックのスポーツクラブの会合でも同じようなことが話題になった。今年度から登録認証制度が始まったが、様々なガバナンス、目的のクラブが混在しているのが現状。それぞれの地域で丁寧に話し合いをしていただき、その場に総合型クラブも混ぜていただきたい。
委員	スポーツをする子どもたちのことを中心に考えていかなければならない。今ある現状、今ある課題だけに注目するのではなく、子供たちがスポーツをやってよかったと思える環境をどうすれば作ることができるかについて議論できればと思う。家族との時間を確保すること、中学生の発育発達に配慮すること、生涯を通してスポーツに親しむ環境をつくること、過剰な勝利主義をやめること、試合機会を平等にするために大会の在り方を見直すこと、複数の部活に所属できる環境をつくることなど。
委員	市町村がどういうビジョンを持っているのか、そこにどういう支援が必要なのか、もう少し具体的に描いていかないと、現実のものとして捉えることができないと思う。
委員	少し急ぎすぎていると思う。もう少し県内のいろいろな状況を踏まえながら、山形方式という言葉を大事にしながら取り組んでほしい。 部活動の地域移行ではなくて、地域スポーツの中に部活動が入っていくと考えると、スポーツを通して地域活性化をしていくという考えにも至る。 全国高体連は、部活動は教育活動の一環であるという考えで、高校総体はなくさないと言っている。 本県の子どもたちの県外流出が進んでおり、強化を目的としたクラブの存在も大事になり、格差が生じてくるだろう。
委員	ここでの議論をできるだけ早く協力してくれる人たちにも伝えて、「現場からやろうよ！」という空気感をつくっていくことが大切だと思います。